

釧路公立大学地域経済研究センター・(財)北海道開発協会 共同  
「循環型社会形成研究会」講演会のご案内

21世紀は「環境の世紀」といわれますが、北海道開発政策においても、地球温暖化が顕在化してきている中で、経済、生活の持続的な発展と二酸化炭素削減を達成する低炭素社会の実現に向けた取り組みが急務になってきています。化石燃料エネルギーを中心にした多消費型の経済社会システムから地球環境に負荷を与えない脱炭素への転換を図る、資源循環型の経済社会システムの構築を図りながら、自然と共生する持続的な地域社会の形成を図っていく知恵が求められています。

こうした問題意識のもと、釧路公立大学地域経済研究センターと(財)北海道開発協会では、循環型社会形成の経済的な意義について考えていくとともに、低炭素社会に向けて経済発展と両立させながら着実に取り組みを進めている先行事例などについての調査研究を共同研究として取り組んでおります。

今回の研究会では、スイス在住で環境と豊かさの両立を目指す「近自然(工)学」を研究しておられる山脇正俊さんをお招きして、ご講演をいただくことになりました。関心のある方であればどなたでも参加できます。皆様の参加をお待ちしております。

循環型社会形成研究会代表 小磯修二(釧路公立大学学長・地域経済研究センター長)

テーマ：「スイス・ドイツからの提案：

豊かさと環境の両立を目指す『近自然』とは？」

講師：山脇正俊氏 (スイス近自然学研究所代表)

豊かさと環境の両立を目指し、環境と人間の双方に配慮しながら川づくりや都市計画、道路などの工法に生かしていくという「近自然(工)学」。山脇氏は、70年代にスイス・チューリッヒ州とドイツ・バイエルン州で始まった、環境と人間の双方に配慮した新しい川づくりに出会い、ドイツ語から連想した自らの命名で、これを「近自然河川工法」と名付け、以来、「近自然(工)学」の理念や考え方、近自然工法の体系化の研究をスイスに在住しながら続けています。今回は、山脇氏ご自身から「近自然学」について解説いただくとともに、川や道路、まちづくりなど、その応用例をビジュアルを用いてわかりやすく解説いただきます。



<講師プロフィール>



1950年高知県生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科後期博士課程でスイス連邦立チューリッヒ工科大学高電圧研究室へ研究員として招かれ、永住。04年より北海道工業大学客員教授。80年よりスイス連邦立チューリッヒ工科大学、チューリッヒ州立総合大学講師(武道)。86年、スイスとドイツで70年代に始まった環境と人間の双方に配慮した川づくり「近自然河川工法」(ドイツ語から連想した山脇氏による命名)に出会い、近自然(工)学の理念や近自然工法の体系化の研究を進めている。「近自然」の考え方は、川づくりのほか、道づくりやまちづくり、エネルギー利用や農林水産業の分野にも応用されている。

とき：2009年10月9日(金) 13:30~15:30

ところ：「かでの2・7」5階510会議室

(札幌市中央区北2条西7丁目)

※当日のお問い合わせは、TEL(090)8708-4340(関口)まで

参加申し込みは裏面の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

**「循環型社会形成研究会」講演会**  
**2009年10月9日（金）開催 参加申込書**

所属団体	役職	氏名 <small>(よみがな)</small>	連絡先（TEL）

必要事項をご記入の上、

**F A X (011) 631-0540 (プランニング・メッシュ 担当：関口) までお申し込みください。**

※この件についてのお問い合わせは、TEL (011) 631-0540 (プランニング・メッシュ 担当：関口まで)

※参加申し込みは10月6日（火）で締め切らせていただきますが、定員（50名）に達した場合は、期日前に締め切らせていただくこともございますので、あらかじめご了承ください。